

防災学習会 グループによる質疑応答内容

質問内容	アドバイス内容
避難する際、避難所に持っていったらいいもの	水、簡易トイレ、ラジオ、懐中電灯、救急用品、食料、毛布、羽織るような物、暖を取れるもの
ペットを避難所に連れて行ってよいか	ペットも家族と同様と考える人が増えており、連れて行って可。ゲージに入れておくこと
避難が遅れた場合はどうすればよいか	2階がある場合は垂直避難する。（2階に上がる）家の中の少しでも安全な場所に行く。
災害時、スマホはつながるか	電波状況が悪くなる可能性ある。 災害用伝言ダイヤル（171）使用。
車いすでの介助の際、大事なことは	車いすを押すスピードはゆっくり。一つ一つの動作に声を掛けながら行う。急な下り坂は、反対向きに進む。
砂利などの平坦でない道を車いすで介助をするには	基本的に後ろ向きに進む。周囲に気を付けて操作し、タイヤから進むとスムーズに行く。
車いすで段を上がるときに気を付けることは（うしろのステップを踏むことを含めて）	声掛け。前輪はしっかり上げ、前輪がくるくる動かないようにしっかり前に向ける。力が必要。慎重にし、複数の人で対応する。乗っている人が前かがみになっていると持ち上がりにくい。背もたれにもたれてもらい、体重移動をし、てこの原理を活用する。
視覚障害者の誘導について	視覚障害者の方に、介助者の肘などを軽く持ってもらって歩く。狭い道は一列になり介助者はやや前を歩く（白杖を右手に持っている場合が多いので、その反対側に立つ。車道や線路がある場合は、介助者が車道や線路側を歩く）
消火器を使う時の距離は	約3m
消化するか避難するかを目安は	炎が天井に達したくらいで避難 リビングまで火が来ると消火できない
火災における煙への対応は	煙は上に上がるので、充満する前に体を小

	さくして逃げる
人が倒れていて、周りに誰もいないときどうすればよいか	胸骨圧迫を10分から20分ぐらいする。それでも意識が戻らなければ、大人を探しに行く。
AEDが使えないと言われたら	救急車が来るまで胸骨圧迫をし続ける。 1分で100回から120回 人工呼吸と胸骨圧迫は2:30の割合 *人工呼吸と胸骨圧迫をするのがベストだが、感染など抵抗がある場合は、胸骨圧迫だけ行う。 圧迫を最大10秒以上開けない。(1秒でも早く再開する)
胸骨圧迫で骨が折れたら	折れても助かる場合があるので続ける
呼吸できているかどうかわからないときの対応	胸骨圧迫を続ける
大人と子供の胸骨圧迫の違いは	大人は強く圧迫する。圧迫は5cm、6cmは超えない。小児や乳児は胸の厚みの1/3 大人も子供もポンプの原理で胸の部分が上下しているか確認する
胸骨圧迫の手の組み方	両手を重ねて手を組む。肘は伸ばす
津波が来るときは	より高い高台に避難する
簡易担架をつくるとき、毛布がなかったら	昔は戸板を使っていた。人を助けることができれば何でもいい(2人の手でいすのようなものをつくる)
地震や津波の避難のタイミング	緊急地震速報や避難情報(気象庁や各自治体)
担架に乗せた人の運ぶ場所	大人がいる場所、体育館、市役所、病院
ベッドの近くに置いておくもの	くつ、懐中電灯、ラジオ、笛、靴下など
高齢者の方の避難方法	おんぶをする
災害発生時、前は海、後ろは崖の場合どうすればよいか	津波が来る可能性があれば、高台に避難する
洪水や津波の浸水で危険な水位は	30cmの水位で走れない
防災用品はどこで売ってるか	スーパーやネット
避難所設営用のテントは何人用か	2人から3人
自衛隊はいつ来るか	3つの条件があればくる(最近はすぐ来てくれる(県知事に市長が要請したら)消防

	の方が早い
災害発生前に大切なこと	事前に防災グッズを準備しておく
仮設トイレに入る量	100L
しまなみ海道や道路が寸断され、孤立したとき、自分の命は自分で守ること。高齢者が多い島で、中高生やその保護者など若い世代が中心に率先して動いてくれると助かる。近所や身近な人の助け合いが一番必要。	
自分の命が一番大事。車にも非常袋を常備する。出かけ先でも「もしも」を想定し、避難できそうな場所を見つけておく。自分の命を確保できたら避難所で活躍するのは、中学生や若者である。しっかり協力・連携することが大切。	